

国管理空港の収支と空港ビル会社の決算

2015年11月14日

国交省が試算した国管理空港の収支試算（H25年度）と、それに対応する空港ビル会社等の決算の情報（H26年度）をもとに、簡単に分析してみた。

（注1）ここでは国管理27空港のうち、丘珠と八尾を除く25空港をとりあげた。

空港名は通称（例；百里⇒茨城、美保⇒米子）で表示した。

対応する空港ビル会社は、社名ではなく空港名に置き換えて表示した。

（注2）国管理空港の試算数値はパターン②（企業会計の考え方を取り入れ、一般会計財源から航空機燃料税を配分）を採用した。

1. 国管理25空港と空港ビル会社の経常利益の比較

- ① 国管理空港は6空港が黒字、19空港が赤字で、総額99億円の経常損失。
（但し純一般財源の168億円を加えたパターン③では68億円の黒字となっている。）
- ② 対応する空港ビル会社は全社黒字で、総額245億円の経常利益を計上。
売上高に対する利益率も総じて高めとなっている。
- ③ 国管理空港の利益を空港別にみると；
 - ・ 発着旅客数75百万人の羽田は赤字（純一般財源収入を加えたパターン③では63億円の黒字）
 - ・ 新千歳は大幅な黒字、一方那覇は赤字が最も大きい。
- ④ 空港ビル会社の利益を空港別にみると；
 - ・ 4大空港ビルの利益が大。利益額は羽田が最も大きく、利益率では那覇と福岡が大。

《図表1》国管理空港と空ビルの経常利益比較

	国空港			空港ビル			(H26実績)		
	経常利益 (H25)	経常利益 (H26)	利益 率	発着 旅客数	1日の 発着 便数	便当 り旅 客数			
	百万円	百万円	%	千人	便	人			
1	羽田	-1,482	11,849	7	74,215	1,187	171		
2	新千歳	5,357	2,109	4	19,531	381	140		
3	福岡	101	3,484	17	20,004	488	117		
4	那覇	-5,248	2,442	30	17,531	424	113		
5	稚内	-731	18	12	182	7	68		
6	釧路	-824	124	23	673	27	67		
7	函館	-1,344	523	19	1,719	48	99		
8	三沢	-183	16	8	238	10	66		
9	仙台	-2,094	632	35	3,240	152	58		
10	新潟	-2,133	99	6	1,008	77	36		
11	茨城	-248	34	7	538	16	91		
12	小松	629	340	16	2,314	49	130		
13	米子	-301	5	1	860	28	85		
14	広島	-159	429	13	2,721	64	117		
15	岩国	-492	13	6	366	8	126		
16	高松	-187	120	14	1,762	51	94		
17	松山	305	489	27	2,844	86	90		
18	高知	-288	189	18	1,336	51	72		
19	徳島	-323	50	8	1,014	31	90		
20	北九州	-607	32	5	1,260	47	73		
21	長崎	-48	317	6	3,009	88	94		
22	熊本	391	344	22	3,107	111	77		
23	大分	-121	203	8	1,770	61	80		
24	宮崎	-158	243	6	2,858	113	69		
25	鹿児島	284	366	14	5,172	182	78		
	(計)	-9,904	24,470	9					

2. 発着旅客当りの収入

発着旅客当りの収入について、「空港」と「空港ビル」を算出した。

(注1) 発着旅客当りの単価であり、「発着地」空港と「着地」空港を足した額が、1旅程の旅客に起因する収入単価といえる。

(注2) 空港ビルの単価は、テナント料など航空旅客以外からの収入も含む総収入を発着旅客数で除した数値であるが、最終的負担は空港発着の旅客に帰するとみなしたものである。

- ① 「空港」単価は、羽田が990円と最も高く、総じて数百円台が多い。
- ② 「空港ビル」単価は、新千歳と羽田が2000円超で突出して高く、1000円超のところも多くみられる。

《図表 2》国管理空港と空ビルの発着旅客当り収入

		発着旅客当り収入	
		国空港 の収入 (H25)	空ビル の収入 (H26)
		円	円
1	羽田	990	2,338
2	新千歳	601	2,582
3	福岡	711	1,051
4	那覇	598	462
5	稚内	610	860
6	釧路	633	787
7	函館	684	1,573
8	三沢	357	818
9	仙台	771	563
10	新潟	749	1,657
11	茨城	341	892
12	小松	489	893
13	米子	320	478
14	広島	463	1,189
15	岩国	312	650
16	高松	487	492
17	松山	572	644
18	高知	565	799
19	徳島	409	583
20	北九州	693	545
21	長崎	451	1,689
22	熊本	562	497
23	大分	437	1,451
24	宮崎	375	1,445
25	鹿児島	411	498

3. 「空港」発着旅客当りの収入・費用の内訳

「空港」の発着旅客当りの収入・費用について、その内訳をみた。

- ① 羽田は、着陸料収入が多いこともあって収入単価は990円と最も高いが、減価償却費と支払利息が高いために費用単価も1011円と高く、結果的に赤字。
- ② 那覇は、着陸料収入が少ない（割引率が高い）こともあって収入単価が低い。他方、空港整備費や土地の賃料が多いために費用単価が高く、赤字となっている。
- ③ 福岡も土地賃料が多いことが影響して、黒字幅は小さい。仙台の空港整備費が多いのは、震災復興が影響していると思われる。稚内、三沢、岩国は、旅客数が少ないため、人件費や省庁費が割高となっている。新潟は減価償却費と省庁費が高い。

《図表3》国管理空港の発着旅客当り収入・費用の内訳

	発着旅客当り収入内訳(H25)					発着旅客当りの費用(H25)										損益	
	着陸料	賃料収入等	一般会計(燃料税)	工事負担金	収入合計	空港整備費	土地建物賃料	人件費	省庁費	市町村交付金	環境対策費	その他経費	減価償却費	支払利息	費用合計		
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
1	羽田	585	250	155	0	990	94	0	23	97	68	1	7	566	155	1,011	-21
2	新千歳	479	47	55	21	601	29	0	30	130	6	0	1	122	0	318	283
3	福岡	486	105	85	36	711	43	420	29	85	20	24	1	84	0	706	5
4	那覇	169	76	319	33	598	395	266	36	90	11	0	3	121	0	922	-324
5	稚内	286	6	230	90	610	297	0	481	1,915	28	0	17	1,965	0	4,703	-4,093
6	釧路	289	33	223	88	633	191	3	223	666	69	0	4	668	0	1,824	-1,191
7	函館	324	29	244	87	684	470	0	82	318	30	0	5	581	0	1,487	-803
8	三沢	305	26	26	0	357	4	0	222	688	11	0	8	113	0	1,045	-688
9	仙台	329	42	251	149	771	832	4	100	204	15	0	3	275	0	1,432	-662
10	新潟	302	131	170	147	749	329	7	149	553	88	6	8	1,707	0	2,847	-2,098
11	茨城	323	18	0	0	341	3	8	119	292	44	0	3	514	0	982	-641
12	小松	381	84	17	6	489	24	0	31	111	2	0	2	44	0	215	275
13	米子	304	16	0	0	320	0	2	78	250	22	0	6	432	0	790	-470
14	広島	369	62	26	7	463	35	1	59	203	22	0	2	202	0	523	-60
15	岩国	295	17	0	0	312	0	11	108	471	0	0	3	1,116	0	1,709	-1,397
16	高松	357	78	29	23	487	37	0	72	259	25	0	3	210	0	606	-119
17	松山	303	49	189	31	572	91	0	42	151	26	22	3	122	0	458	115
18	高知	332	38	151	44	565	132	0	80	276	68	17	4	204	0	781	-217
19	徳島	338	70	0	0	409	0	0	35	200	84	0	1	422	0	742	-333
20	北九州	367	112	116	98	693	85	0	86	367	138	0	3	451	0	1,131	-438
21	長崎	313	38	67	32	451	77	3	46	169	25	0	3	144	0	467	-17
22	熊本	315	42	143	61	562	56	1	48	179	6	0	4	140	0	434	128
23	大分	322	32	49	34	437	43	0	63	232	40	0	5	125	0	507	-70
24	宮崎	316	50	9	1	375	7	0	42	199	22	10	1	149	0	430	-55
25	鹿児島	298	32	57	23	411	54	0	57	120	16	0	2	105	0	355	56

4. 「空港ビル」25社の留保利益

空港ビル各社について、当期純利益と留保利益（利益剰余金）、そして留保利益の規模が純利益の何年分に相当するか、また純資産に占める留保利益の割合についてみた。

① 空港ビル25社の留保利益は約1500億円であり、これは26年度純利益の12年分に相当する。またそれは純資産の約7割にあたる。

② 総じて歴史のある空港ビルほど純資産に占める留保利益の割合が高い。

新千歳は96%、鹿児島は97%、熊本・長崎・函館も90%超。

福岡・米子・高知が80%台、那覇・松山・大分・小松が70%台。

羽田は65%。

開設後の時間が浅い空港ビルは総じて低く、震災の影響を受けた仙台は累損が残っている。

《図表 4》 空港ビル 25 社の留保利益

空港ビルの留保利益					
	当期 純利益	留保 利益	純利益 ÷留保 利益	留保利 益÷純 資産	
	百万円	百万円	年分	%	
1	羽田	6,648	73,252	11	65
2	新千歳	1,179	10,566	9	96
3	福岡	1,256	23,053	18	84
4	那覇	1,542	9,449	6	72
5	稚内	12	350	30	41
6	釧路	79	553	7	73
7	函館	324	2,718	8	92
8	三沢	8	187	24	33
9	仙台	593	-130	(震災復興)	
10	新潟	63	-2,141		
11	茨城	39	※	(公社会計)	
12	小松	206	2,636	13	79
13	米子	36	929	26	86
14	広島	203	2,285	11	31
15	岩国	37	6	0	1
16	高松	72	665	9	31
17	松山	287	3,181	11	74
18	高知	121	2,521	21	81
19	徳島	44	953	21	37
20	北九州	24	514	21	13
21	長崎	423	5,323	13	91
22	熊本	228	3,887	17	95
23	大分	149	1,675	11	77
24	宮崎	148	2,386	16	62
25	鹿児島	262	8,706	33	97
	(計)	13,982	153,523	12	70

5. その他の「空港ビル」25社の収益性と留保利益

国管理空港以外の空港にある空港ビル25社について、H26年度の収益性と留保利益(利益剰余金)を眺めてみた。

(注) 一部の会社は管理当局が公表している H24~H25 年度数値をもとにした。

- ① 25社の全てが利益を計上し、留保利益も確保している。
留保利益の総額は536億円で、純資産に占める割合は76%。
- ② 大阪国際(伊丹)が突出して大きく、留保利益は243億円、純資産に占める割合は95%。名古屋県営が留保利益106億円で続き、純資産に占める割合は98%。
ほかの12社も、純資産に占める割合が60%以上となっている。

《図表5》 その他の空港ビル25社の収益性と留保利益

	空港ビル会社 (株式会社)	(年度)	空ビルの留保利益				(H26実績)		
			当期 純利 益	留保 利益	純利益 ÷留保 利益	留保利 益÷純 資産	発着 旅客数	1日の 発着 便数	便当り 旅客数
			百万円	百万円	年分	%	千人	便	人
1	旭川空港ビル		75	2,002	27	80	1,109	21	145
2	帯広空港ターミナルビル		100	1,415	14	75	587	31	52
3	女満別空港ビル		53	1,209	23	75	736	28	73
4	根室中標津空港ビル		17	268	16	35	195	8	65
5	青森空港ビル		51	1,318	26	44	936	42	62
6	岩手県空港ターミナルビル		35	619	18	65	397	32	34
7	大館能代空港ターミナルビル		24	241	10	35	123	4	77
8	秋田空港ターミナルビル		108	2,279	21	75	1,223	53	63
9	庄内空港ビル		66	712	11	60	369	11	88
10	山形空港ビル		8	1,084	45	69	209	17	33
11	福島空港ビル		57	302	5	75	254	22	32
12	八丈島空港ターミナルビル	(H25)	32	504	16	63	183	11	44
13	富士山静岡空港		492	888	2	58	547	22	69
14	富山空港ターミナルビル		124	1,156	9	53	987	25	109
15	能登空港ターミナルビル		23	133	6	12	152	9	45
16	名古屋空港ビルディング [*] (名古 屋県営空港)		299	10,593	35	98	655	32	56
17	大阪国際空港ターミナル		1,247	24,317	20	95	14,621	381	105
18	神戸空港ターミナル		42	893	21	30	2,446	77	87
19	南紀白浜空港ビル	(H24)	7	40	6	9	108	13	24
20	鳥取空港ビル	(H25)	23	463	20	76	343	15	64
21	出雲空港ターミナルビル	(H25)	52	490	9	60	786	33	65
22	岡山空港ターミナル	(H25)	58	1,092	19	56	1,355	29	127
23	山口宇部空港ビル		47	1,209	25	79	883	22	109
24	宮古空港ターミナル		36	322	9	26	1,323	44	81
25	石垣空港ターミナル		154	63	0	4	2,321	74	86
	(計)		3,233	53,613	17	76			

(さいごに)

上(建物)と下(空港運用)との一体的運用で、空港サービスの向上と低コスト化を図り、航空需要の開拓と活性化が一層進展することを期待したい。

以上